

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホームハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成29年8月1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%21rue&amp;ji_gvosyoCd=2170200485-00&amp;Pf_efCd=21&amp;Ver:si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%21rue&amp;ji_gvosyoCd=2170200485-00&amp;Pf_efCd=21&amp;Ver:si_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームハートフルは周りが自然に囲まれた環境であり、四季折々の草花が咲き自然を身体いっぱいを感じる事ができます。特に敷地内に畑があり、御利用者と一緒に家庭菜園ではその季節に合った野菜や果物を育てて収穫し、調理して食卓へと提供する事を行っており、季節を感じると共に作る楽しさや収穫する楽しさなども感じていただいています。又、食事は提携業者からの料理を提供する事でかわらぬおいしさと安心した栄養バランスを実現しています。ボランティアの協力によるお楽しみ会を月に1回開催し民謡やマジックショーなど様々な活動を観賞すると共に併設施設との交流により相互にお楽しみ会などの催し物の活動に参加しています。又、施設内の活動のみではなく、地域との交流が図れるように年に1回地域交流会を開催や地区のお祭りへの参加さらには近隣住民のクラブ活動の見学など地域との交流も積極的に実施しています。

ハートフルという名前のとおり、心を一杯込めて利用者に接する気持ちでサービスを提供している。笑顔や声を絶やさず声のトーンや言葉遣いにも配慮して、感情的にならないケアを心がけている。喫茶店や近くのグラウンドに出かけたり、文化祭に利用者の作品を展示してもらい見に出かけたりしている。毎月のお楽しみ会でボランティアとも触れあい、地域交流会は楽しめる内容にして、大勢の住民と中高生の参加・協力を得ている。職員がボランティアで運営に関わった祭りには、利用者も一緒に参加し地域との付き合いも積極的に行っている。身体拘束ゼロに向けた取り組みを継続し、人権擁護委員会で3ヶ月に1回目標を立て、日々のケアで実践し振り返りながら、質の向上にも努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を常に職員の目に入る事務所と玄関先に掲示し常に意識して業務にあたっている。又、個人が掲げる目標は部門目標に、部門目標は基本理念に添った物であり個人目標を通して基本理念を実践に取り入れている。	法人の理念を基に部門目標を作成し、その部門目標を基にして個人目標を職員個々が作成している。毎月の会議等で部門の反省点も踏まえ達成度を確認し日々の実践につなぐ努力をしているが、事業所独自の理念が作られていない。	地域密着型サービスとしての事業所の役割を職員全員で話し合い、事業所独自の理念を作り上げていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回多種多様なボランティアや年1回開催する地域交流会、など行事の工夫をしながら交流を図っている。運営推進会議では家族や市職員のみではなく民生委員や自治会長、地域包括職員への協力を仰いでいる。	地域交流会ではチラシを作り、回覧板で周知すると共に商店に掲示を依頼し、近隣は職員が手配りし大勢の参加を得ている。職員が運営に携わった地区祭に利用者と参加し、グランドゴルフの見学に出かけ住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域の福祉大学や看護学生の実習先として公開し次世代の育成に努めている。又、地域の小・中・高の学生のボランティア活動の受け入れも随時実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月行っている活動の報告や他者からのご意見を伺い、得られた意見を全ケアワーカーへフィードバックし業務の改善に活かしている。又、多くの方に会議に参加して頂けるように日程の調節を行っている。	利用者・家族や苦情相談員などの参加を得て開催している。活発に意見交換され、評価結果を報告し、欠席者に議事録を送付している。職員の名前がわからないとの意見から、事業所新聞に顔と名前を載せた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回開催する運営推進会議にて高齢福祉課職員と地域包括支援センター職員に参加して頂き情報の共有を図っている。	市主催のケアマネ交流会に参加し、事例検討や情報交換をし、事業所の問題点等も話し合い助言を得ている。市からの依頼で毎月介護相談員を受け入れている。認知症サポーター養成講座を行った事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権擁護委員会を中心に身体拘束0に向けた取り組みを実施。特に言葉の拘束についても着目してケアを振り返り実践している。窓や扉の施錠は日中は行わず夜間の決められた時間のみ行っている。	毎月の勉強会等で身体拘束について学び、拘束しない為にどうしたらよいかとの考えでケアしている。利用者の行動を見守ることで、玄関の施錠はせず、外出したような人には、話を聞いたり付き添って外出したりしている。言葉による拘束には特に注意し、職員間で声を掛け合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で行われる研修や外部機関が実施する研修会への参加を通して知識の向上を図っている。玄関にパンフレット等を設置し相談を受けた時には説明をするようにしている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修にて学んだ事を会議にて発表し情報共有を図ると共に知識の向上に努めている。又、ケアマネや上司からのアドバイスも随時実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明はご家族や利用者のペースに合わせて説明し随所に疑問点がないかを確認している。相手の表情や仕草にも注意し必要な時には職員から声をかけ、理解・納得が得られるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問を受けており、利用者との会話の中から気づいた事や感想をノートに記載して頂いている。さらに運営推進会議にて家族や利用者の意見を表している。	利用者が自ら意見を言いやすい聞き方の工夫をしている。多くは面会時に聞いているが、家族アンケートや家族会でも意見を聞き、取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中での発言やGH会議、半年に1回実施する個人面談など様々な場面にて意見を貰い業務改善に活かしている。	管理者は日頃から何でも言える関係を築き、職員の意見を聞いている。職員間で話をしたり、申し送りノートを活用したり、会議等でも出た意見を話し合っている。出た意見からシフト表を見直し出勤時間を変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し各職員のやる気を引き出す取り組みを行っている。加えて年1回、改善提案の募集があり、意見が採用された時には奨励金が出る制度があり、職員のモチベーションの維持・向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月実施する内部研修や外部の研修会への参加を通して育成やスキルアップを目指している。OJTによる業務指導や新人職員に対する「介護職員スキルアップ表」の活用の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換をして交流を図っている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の際、落ち着いて話ができる環境になるように場所を配慮し、利用者・家族共に傾聴している。併設施設からのご利用の時には担当ケアマネや他部署の職員と情報交換を行い事前面接で話す前の土台作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接やサービスの契約の時に家族の思いや不安・困っている事を傾聴すると共に必要な時には助言をし家族との関係性の構築に努めている。電話で相談を受ける事もあり、その都度相談対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族の話を聴きながら、利用者・家族のニーズを引き出し、必要な時には併設施設の相談員とも連携を図り利用者にとってより良いサービスを利用して頂けるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭菜園で収穫から調理を利用者と一緒に行ったり、おやつ作りを楽しむ。ご利用者の意見で外出し一緒に喫茶店でお茶をしたり買い物に出かける等を通じ、職員・利用者共に当たり前の日常を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々お越しくださる面会時の関わり、年に4回ご利用者の近況報告を一筆箋にてお伝えする事で日々の様子をお知らせしています。又、年2回の家族会で家族と一緒に外出や運動会など共に過ごす時間を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後も外泊や外出が自由に行える事を家族・利用者へ発信しています。併設施設に身内がいる方は面会に出掛けたり、デイサービスやショートステイに顔なじみの方がいる利用者は話に行くなど馴染みの関係を保てる支援をしています。	入居時に利用者が関わってきた人や場所の情報を家族から得ている。敬老会や地域行事に参加し、知人に出会う場面も多くある。会いたいとの思いを受け、電話で話ができるようにしたり、来所をお願いしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、食事やレアクティビティ以外の時間でもフロアで皆様が過ごして交流が出来るように声掛けを行っています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族に向けて「近くにお越しの際は気軽にお立ち寄り下さい。」と声掛けを兼ねなく来所頂ける様に配慮しています。又、ある程度の期間が過ぎた時にはお手紙を送るように計画している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接記録からの要望の確認や日々の会話の中での思い等から利用者の意向を把握し対応に努めている。思いを引き出した時にはケース記録に記載し担当職員や他ワーカーと情報共有が出来るように対応している。	利用者を目線を合わせ、自分から思いが言えるように、噛み砕いた聞き方をしている。普段の関わりから思いを把握し、日々の会話から本音が聞ける事もある。困難な人には、表情や態度から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接記録に生活歴やサービス利用までの生活の状況・本人の趣味、嗜好が掲載されており職員は必ず事前面接記録を確認し利用者の把握に努めている。又、記録のみではなく実際に交流する中で話しを引き出しながら理解を深めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の変化を記録に残し状態を把握する共に、月1回のモニタリングをケアマネと相談しながら実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の中で利用者の思いや要望を聞き、担当職員・家族・ケアマネジャー・医師・看護職員とも連携を図りながら本人のニーズが反映されるように検討し介護計画を作成している。半年に一度カンファレンスを開催しニーズとプランにズレがないが話し合っている。	ケアマネジャーが中心となり、本人・家族・医師・担当職員等と話し合っ、介護計画を作成している。入居時や認知症の進行が早い方、急な状態変化時には、速やかに見直している。担当職員の意見で見直す時もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や職員からの気づきをケアマネに伝え月1回モニタリングを実施し、さらには半年に1回ケアプランの評価を行っている。それらを踏まえて半年に1度カンファレンスを開催しプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の対応は家族と相談し、車椅子での受診など通常の車では難しい時には可能な範囲で送迎対応も行っている。又、車椅子やシルバーカーなどの福祉用具も併設施設と協力し、本人に合っていれば貸し出しも行っている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	マジックショーや民謡など地域のボランティアの活用し、月に1回お楽しみ会を開催する事で利用者に楽しんで頂く時間を設けている。又、近隣地区でのお祭りや行事などがある時には参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先の病院は家族の希望を尊重しており、協力医療機関以外でも受診に行く事が自由である。「かかりつけ医」の連携のもと、体調管理や体調不良時の24時間体制、重症時には地元総合病院への紹介、連絡協力も行える。	入居時に訪問診療が受けられる協力医に変更する利用者が多い。かかりつけ医や専門医には、家族の協力を得て受診し、状況を記した経過報告書を渡し結果の報告を受けている。職員が受診支援する時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回バイタル測定に併設施設から看護師が来所、体調の把握・管理を行っている。又、日々の体調の変化などはその都度看護師へと報告し本人に合ったケア実施している。夜間帯に体調の変化についても連携を図り急変時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は職員が週1回の間隔で面会に訪問し看護師や家族、医師と情報共有をすると共に、本人や家族の相談対応も実施する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間、365日の連携体制を確立。又、併設する特養看護師にも24時間連絡を取る体制にある。家族には夜間付き添いなどの協力を依頼し、協力医・看護師・家族・職員と連携しながら終末期ケアを整えている。	入居時に重度化した場合や看取りについて、書面で説明し意向を聞いている。状態変化時には、その都度、医師の指示を仰ぎ家族と話し合っている。本人や家族の意向を尊重し、看護師の指導の下職員で方針を共有し、看取りも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員による内部研修にてAEDの操作方法・心肺蘇生の訓練を定期的に行い、内部研修を通して日々の利用者の変化に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設での避難訓練とグループホーム独自の避難訓練の2種類を実施。年4回避難訓練を実施する中で想定する災害を様々なもの変え、災害時も臨機応変に対応出来るように練習をしている。	夜間想定もして地震や不審者侵入等の避難訓練を利用者も一緒に行っている。非常持ち出し袋やヘルメットは、目に付く所に常備しサスマタも準備している。水や食料等を備蓄し、福祉避難所としても協力している。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と関わると時は視線が同じ高さになるように配慮し人生の大先輩である事を意識して言葉を選択し声掛けをしています。又、お風呂やトイレのお誘いで断られる時は時間を空けるなど、その時の気持ちを尊重した対応を行っている。	利用者は秘めた思いを持ち敏感であることを意識し、その人を大切にす気持ちで接している。他者から見えないように、トイレでは必ず扉を閉め浴室ではスクリーンを使用している。顔写真掲載等は同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員を中心に利用者の思いを聞き取り、他職員とも共有しています。小さな事から自己決定が出来るよう、オープクエスチョンやクローズドクエスチョンを使い分けて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大勢の中で過ごしたい時や一人になり時・休みたい時など、その日により様々であり、その日の気持ちに沿って過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	委託先理美容業者の訪問日をお伝えし、カットや顔そり、毛染めなどを利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自分で調理し、食べる事を続けられるように月に一回食べ物レクを計画し実施。蒸しパン作りを実施した。日常の食事では盛り付けを利用者と一緒に協力して行っている。好みについては個人購入で対応している。	業者からの食事を好みの味付けに調整したり、畑で採れた野菜で一品作ったり、おやつ作りをしたりしている。エプロンをつけて利用者も一緒に盛りつけや後片付け等をしているが、食事中に会話が楽しく楽しい雰囲気がなかった。	職員が利用者の中に入って、話題を提供するなど、楽しく食事がとれるような雰囲気作りが望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者からの食材を提供する事で一日を通して栄養バランスの摂れた食事を毎日提供している。又、食事・おやつ夜間など意識的に水分補給ができるように促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗浄液を使用した嗽を実施。起床時・夕食後は歯ブラシを使用し丁寧な口腔ケアが行えるように見守り声掛けを行っている。夕食後の口腔ケアでは義歯の方は外してケースに片付けるようにし、月曜日には義歯洗浄剤につけて清潔を保っています。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自身からの訴えない方に対しては定時の声掛けを実施すると共に日中の様子から定時以外にもトイレ誘導を行い気持ちの良い清潔な状態を維持できるように支援しています。	排泄表でチェックし、利用者毎に定時の声かけと個別のトイレ誘導をしている。夜間はポータブルトイレ使用の人もいるが、気持ちよい状態で過ごしてもらう為に声かけの工夫をしている。会議で排泄状態を検討し布パンツになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分摂取量の基準を目安に水分摂取を促しています。又、室内運動など体を動かす関わりも取り入れています。又、個人購入にてヤクルトを毎日飲用される方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回入浴が行えるように入浴日が決まっていますがその日の気分や体調により臨機応変に変更をしています。又、入浴時には歌と一緒に歌ったり話をするなど楽しんで入浴できるように関わりを持っています。	入浴中は職員とゆっくり話をし、昔の歌を歌って楽しみ入浴になるように工夫している。利用者全員で隣接施設の大風呂に入ることもあり楽しみにしている。同性介助や入浴順等にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や本人の希望される時には居室で静養する時間を設けています。日中の活性化を図るためにもメリハリがつくように声掛けの支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬しています。新しく処方された薬などは本人に説明すると共に薬の内容を把握できるように処方箋の確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店や買い物・外出など希望される利用者定期的に外出の支援を行っています。又、家庭菜園での畑作業や洗濯物畳み、食器洗いなど、役割として活動して頂くと共に一緒に交流を深められるように環境を整えています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物等の外出支援や地域で開催されるイベントへや行事への参加、家族会による外出などを実施し利用者の要望に沿った外出支援を行っている。	利用者の希望による外出にもできるだけ応え、喫茶店や買い物に出かけている。葡萄狩り・苺狩りや季節の花見等にも出かけている。洗濯物を干し屋外のテーブルでお茶を飲む時もある。畑では種まき・草引き・収穫も一緒に行い、獲れたスイカでスイカ割りを楽しんだ。	



グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に沿ってグループホームにお金を預けるだけでなく、本人の財布にもお金を持って頂くことがある。又、レクリエーションを通してお金の計算やお金を使う間隔を感じて頂くような工夫もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族の希望で携帯電話を所持している利用者があり、好きな時間に電話を掛けたりしている。職員からの近況報告書を発送する際に一緒にご利用者の手紙を添える支援も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲が自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりを身体全身で感じて暮らす事ができます。朝は鳥の声で目が覚め、風が吹いたり雨が降ったりと五感に刺激を与えてくれるリビングからの眺めは楽しみの一つです。	季節毎の飾り物や手作りカレンダーを飾り、季節の生け花を飾っている。リビングや居室の窓は開放し、すだれを立てかけ、自然の風が通るようにしている。利用者が新聞を読んだり、パッチワーク作りをしたり眺めたりと、思い思いに過ごせる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には椅子やソファを設置し自分の好きな時に気の合う仲間と自由にお話をしながら過ごして頂いています。ひとりになりたい時には居室で過ごす事も自由です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅から馴染みのある家具等を持ち込んでもらい、家具の設置場所なども本人と相談しながら置くなどして落ち着いた環境になるように対応しています。	家族に使い慣れた物を持ってきてもらうように声かけしている。居室に入りきらない程持参した利用者もあつた。誕生カードや家族写真を飾ったり、趣味の本を読んだり職員の顔写真入り作品を壁に掛けたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人ひとりの状態に合わせて、部屋が分からなくなる方には居室の入り口に表札をつけたりトイレの位置を分かりやすく大きな文字で表示するなど工夫している。		